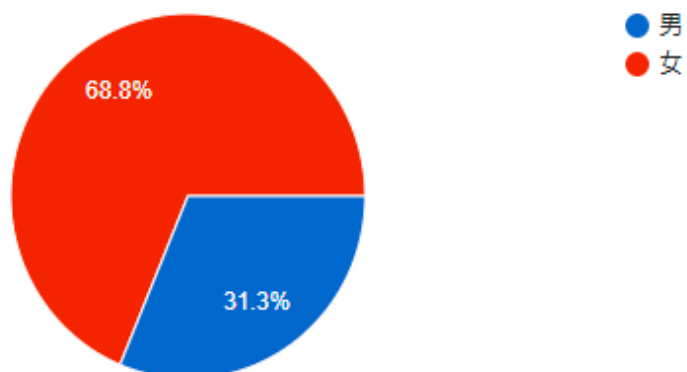


# 人生アルバム専門職向けアンケート(MSW) 9月11日(土)

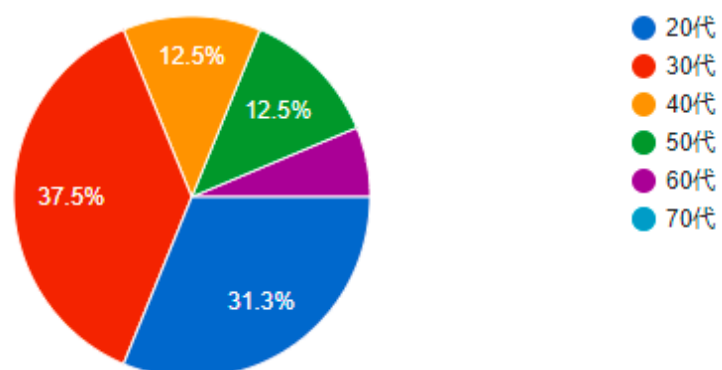
## 性別

16件の回答



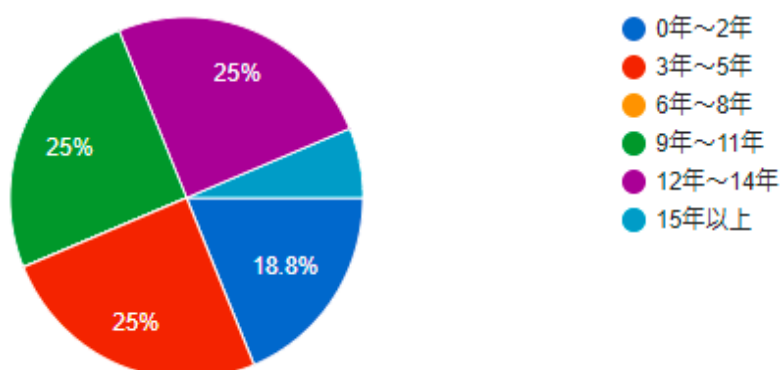
## 回答者年齢

16件の回答



## MSW経験年数(他病院の経験年数含)

16件の回答



上記質問にて「有」と回答された方は、ご意見をご記入願います。

4件の回答

身寄りのない方・家族と疎遠な方向けの項目があるとよいと思った

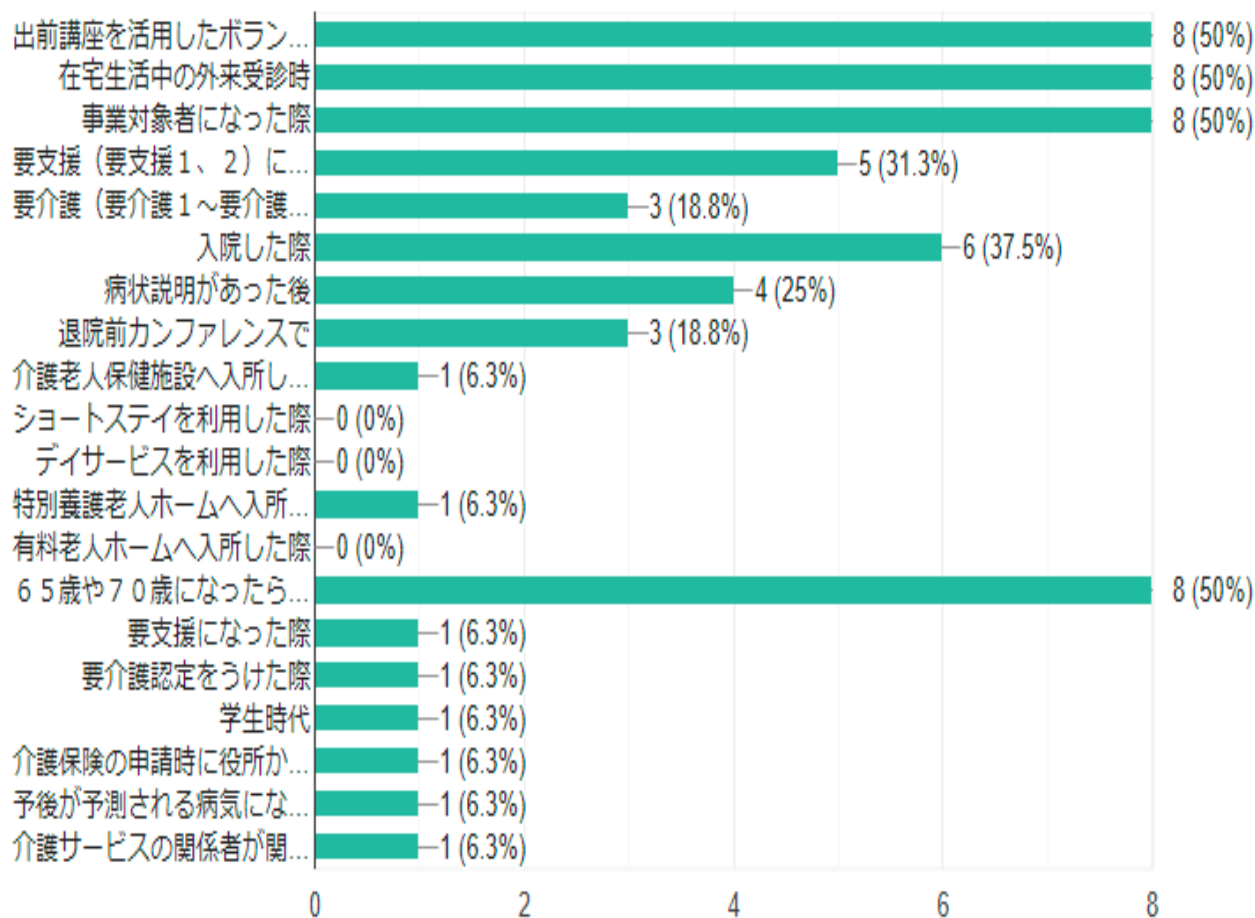
今のわたし を複数枚 思いは変わるため。多すぎても書きにくいと思うので、増やしすぎてもどうかとも思いますが。

わたしのルーツの部分で、親が再婚したケースなど図通りには書けない場合をどうするか

「現在」の状況や「未来」の思いが変更・変化したときに修正ができるような形が良いと思います。

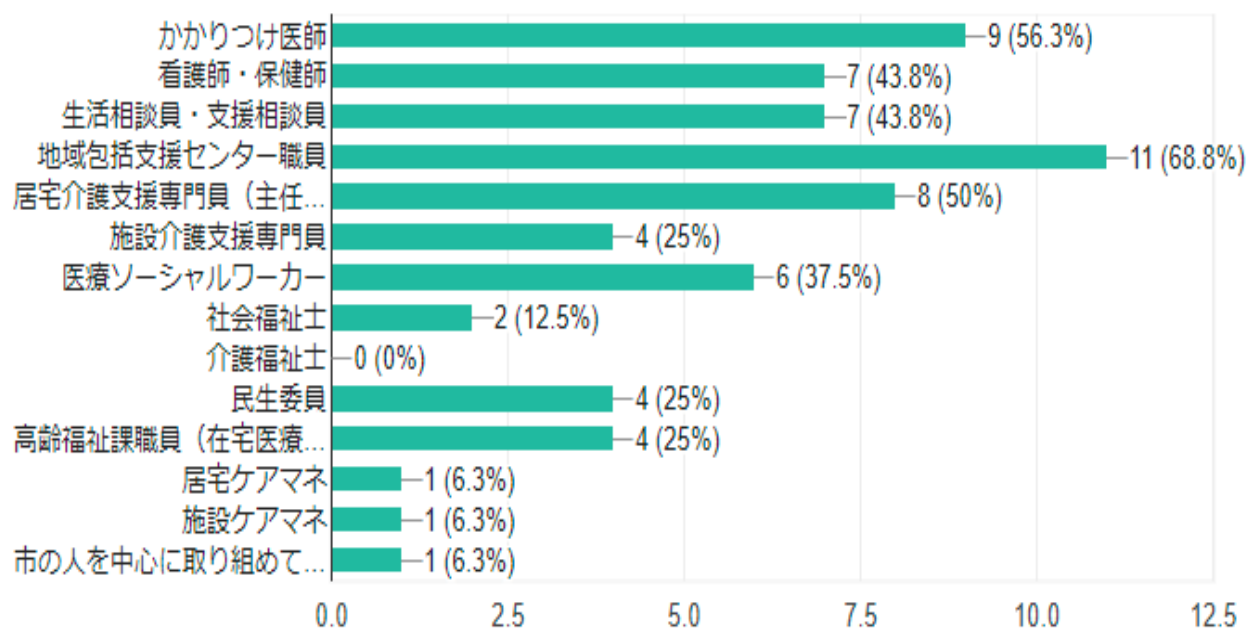
人生アルバム冊子を導入できる場面はいつだと思えますか？（複数回答可 5つまで）

16件の回答



## 冊子を導入する人はだれが望ましいでしょうか？（複数回答可 5つまで）

16件の回答



## 冊子は具体的にどのような方法で（場所・声掛け等）勧めることが適切だと思われますか？

16件の回答

理想は検診のように、一定年齢に達した人に勧めることですが、読んで考えて書くという作業に至るには、やはり説明し促す人が必要と思います。  
個人の内面や人生観はそれぞれなので、寄り合いみたいな所だと書き込みづらいので、個別に考えるとなると、医療機関受診時や施設入所時なのかもしれません。

今後について考える研修会や勉強会や、介護保険の新規申請時に一緒に配るなど 可能であれば説明の動画リンクをはっておくのもどうか

病院では、病気の受け止めとリンクしてしまうため、重くなりすぎることで、勘違いを生む可能性があるかと感じます。  
谷口さんが言われていた通り、もう少し気持ちも身体も落ち着いているときに少しずつ行えるといいなあと思います。

Dr.からの病状説明後、相談の依頼があった際。治療中の方、在宅生活されている方を対象にするとよいと考える。

介護保険等のサービス相談時に担当者（包括、居宅職員等）から冊子記入の提案。  
サービス利用の導入時期は大きな転機と考えられるため、その際に色々担当者がお気持ちなどを確認しやすい状況であると思われる。

包括支援センター等の相談時

医療・介護に関わる人が必要と思われる時点で。市町村任せだけでなく、国としての広報であったりでじわじわ刷り込む必要もあるかと思ってます。

成人になる前であったとしても、死に近づくようなターニングポイントを迎えることはある。いつ死を迎えるか分からないという点でいうと、早くからこういう物があるということを伝えていくことは必要かと思う。

かかりつけ医の受診時、介護保険サービス導入時

心不全、癌など、悪化していく病気にかかった時は、病状説明の一環として病院職員から勤める。  
あるいは、特定の年齢に達した時に書くようにするようしておいて、ケアマネや包括支援センターから声をかける（関わりのない人は…健康診断などのタイミングで保健所から？）。

このテーマを大学の卒論で取り組んだこともあり、誰しもが経験するタイミングでの導入や家族単位での話題にできるよう「成人式」「40歳などの介護保険料の税金支払い開始時」「還暦」などの年齢ごとによるタイミングなどで案内・情報提供を行ってはどうかなと思いました。今後も、ALP（ACP）の話題を繰り返し話し合える場に参加していきたいと思いました。貴重な勉強の機会をありがとうございました。

場所に関しては本人の自宅若しくは慣れ親しんだ場所での説明が良いと思われます。

気持ちや身体状態に余裕があるタイミングが取り組みやすいのではないかな

対象者が相談しにきた時

まずは介護認定を受ける、施設入所するタイミングで声かけをしてみてもどうでしょうか。  
疾患を抱えていたり、日常生活において支援を必要とする方が介護申請を行うため、生活やこれからの過ごし方について本人だけでなく家族とも話をするきっかけにできるのではないのでしょうか。

介護サービスを利用開始される際の「初回アセスメント時」